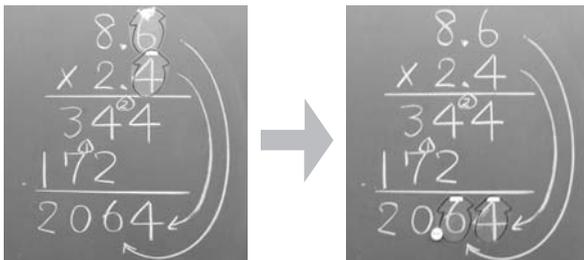


## ◎ 5年生 | 「小数のかけ算」

# 小数のかけ算の筆算お助けキャラクターグッズ

### 1. 小数点イカ

小数のかけ算は乗数と被乗数の小数点以下の個数に合わせて積の小数点の位置が決まります。教科書では小数点以下の桁数を意識させる手立てとして、小数点以下の桁数の部分の数字を○などで囲んでいます。この小数点以下を「イカ」のイラストで囲みましょう。これだけで子どもたちは小数点以下の意味「=小数点よりも右側にある数字を小数点以下という」と、処理の仕方「=小数点以下の個数と同じにする」をつなげて覚えていきます。



黒板用にはクリアファイルにイカをかき、切り取って磁石をつけておきます。あとは乗数と被乗数の小数点以下の数字の上のせたイカが積に移動する過程を見せます。移動するのですから小数点以下の個数が同じになることが視覚的にわかります。

### 2. 小数点君

小数点をつける位置を考えさせるときには丸いマグネットを小数点として使います。目をつけるだけでキャラクター「小数点君」になって注目度がアップします。



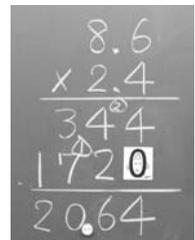
### 3. 幽霊の“れい”

小数のかけ算には注意しなければならない「0」がたくさん出てきます。0.2×0.3のような純小数同士のかけ



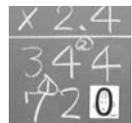
算のときなどには0を補って小数点をつけていきます。こんなときには「幽霊の“れい”が出てくるんです」と「れいちゃん」を黒板に貼り付けます。すると空位の0があることを忘れなくなります。

部分積がずれて階段状になっているところには「本当は“れい”がいるんですね」と言う子どもたちは部分積がずれている意味を思い出して部分積をずらして書いていきます。

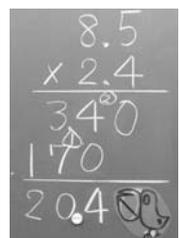


### 4. 計算お助けグッズ

くり上がりの補助数字を忘れてしまう子には補助数字に○をつけましょう。栗の形にして「くりあがりちゃん」とすると、くり上がりを忘れなくなります。



積の末位の「0」を取り忘れてしまう子には末位の0を食べてしまう「0トリ」を登場させましょう。取り忘れが減ります。



筆算をていねいにするために、直線を引くときには子どもに定規を使わせています。教師も黒板で定規を使ってお手本を示していきます。大きな定規だと大変なので、棒マグネットを使っています。



このようなちょっとした計算お助けキャラクターグッズが子どもたちの理解を助け、計算ミスを少なくしていきます。

なお、これらはあくまでもお助けグッズです。計算のしかたと対応させ、筆算の意味を理解した上で使うことで、計算練習のお助けになるのです。